



芝小だより

第十月号

発行所 港区立芝小学校
 〒105-0014
 港区芝 2-21-3
[TEL:03-3456-3072](tel:03-3456-3072)
[FAX:03-3456-3071](tel:03-3456-3071)



自ら計画を立て、自ら行動する意味

校長 齋藤幸之介

九月十八日から二十一日まで、六年生は箱根移動教室に行ってきました。昨年度途中で撤退せざるを得なかった金時山に再度挑戦し、今年度は何とか登頂できました。下山のときには雨に降られました。頂上を目指す際には天も味方してくれました。二〇二〇学園の管理者の方が「こんなに嬉しそうに登山をしている子供たちは見たことがない」とおっしゃったときには、素直に嬉しくなりました。

今年の移動教室の中心となった活動は「課題別学習」でした。昨年度でも行われておりましたが、今年度は、それをさらにバージョンアップさせたものです。これは、学年主任の吉羽顕人教諭の発案です。子供たちの意欲や追究能力を育成するためには、子供たちが自ら行程を計画し、それに則って行動することが大切であるという吉羽教諭の主張は納得できるものでした。当日は出発から時間にズレが生じて当初から変更を余儀なくされ、また一部利用したバスも予定通りには運行されずに右往左往する場面もありました。また、例えば計画していた交通費が値上がりしていたり、さらに魅力的な活動に出会ってしまったり取り組めなかったり迷ったりもしました。しかし、中には粘り強い交渉が実を結んで有利に事を運ぶことができた班もあるなど、子供たちはたくましさを見揮っていました。現地で学習したことは学園でのま

める活動に大いに生かし、三日目の発表会は予想以上の素晴らしい内容でした。

以前は現地に行くことや名所等を見学すること自体に子供たちは満足しました。しかし、すでに多くの旅行を経験している現在の子供たちにとって、今までと同様に宿泊行事を行ってもどれだけ魅力があるかどうかは分かりません。「新たな価値」を探し出すことが私共に求められているのです。

その一 「自ら計画を立てよう」

都内某私立高等学校は、修学旅行での行程をグループ毎に旅行代理店と話し合って決めるのだそうです。このことは、例えば夏休みの自由研究で自ら課題設定し、自分なりに解決する方法を見出すことと同じプロセスです。課題別学習は、このことを意識した活動でありました。当初は、地図上で調べた距離から時間を割り出していました。担任教員からの助言でこれが現実的ではないことに気が付き始め、その他の資料をインターネット等で見付けながら、より正確な時間を割り出して現実可能な予定にしていきました。

その二 「計画通りに行かないという経験をさせよう」

課題別学習では、必ずしも計画通りにはいきませんでしたが、しかし、それを乗り越えていく経験が大切です。ときには仲間の意見が合わずに決裂しそうになったこともありました。しかし、調整力を働かせながら一つの方向性を見出したことは、貴重な経験となりました。

ときに失敗を認めながらもとめに至らせるというプロセスは、これから子供たちがたくましく生きていくために貴重な

な経験であることを私共は子供たちの姿から学びました。

その三 「大人の役割」

いくらたくましくてもまだ小学生ですから、できることは限られています。安全面の確保を含め、ときに子供たちを見守り、ときに子供たちとともに歩み、ときに適切な助言をしていくことは、子供たちの資質や能力をより大きく伸ばさせることにつながります。ですから、共に参加してくださる保護者や学校支援地域本部ボランティアの方々のお力添えは不可欠です。改めて感謝をいたします。

九月二十六日には四年生がプラネタリウムに出かけました。公共交通機関を活用しながら、安全にそして周囲にできるだけ迷惑にならないようにするための経験をしました。翌二十七日には一・二年生がしながら水族館に遠足に参りました。二年生がリードをしながらグループで見学しましたが、途中はぐれてしまう子をみんなで探す場合もありましたが、またグループになって水族館内を見学しました。同日、三年生はスーパーマーケットに出かけました。普段見られない施設等も見学できたと聞いております。いずれも多くの保護者や学校支援地域本部ボランティアの方々にお力添えいただきました。また、グループの組み方、活動の仕方、さらにはマナーと、様々な課題をいただきました。今後さらに工夫と努力をし、一層充実した活動にしていきたいと思います。そして、第六学年の移動教室の課題別学習が一つのまとめとなるように、低学年から様々な活動を経験させていきます。これから御理解と御協力をお願いいたたく存じます。